

2012年

9

月号

組合会報

〈発行所〉

埼玉県鍍金工業組合

〒331-0811

さいたま市北区吉野町 2-222-7

TEL 048 (666) 2184

FAX 048 (652) 7631

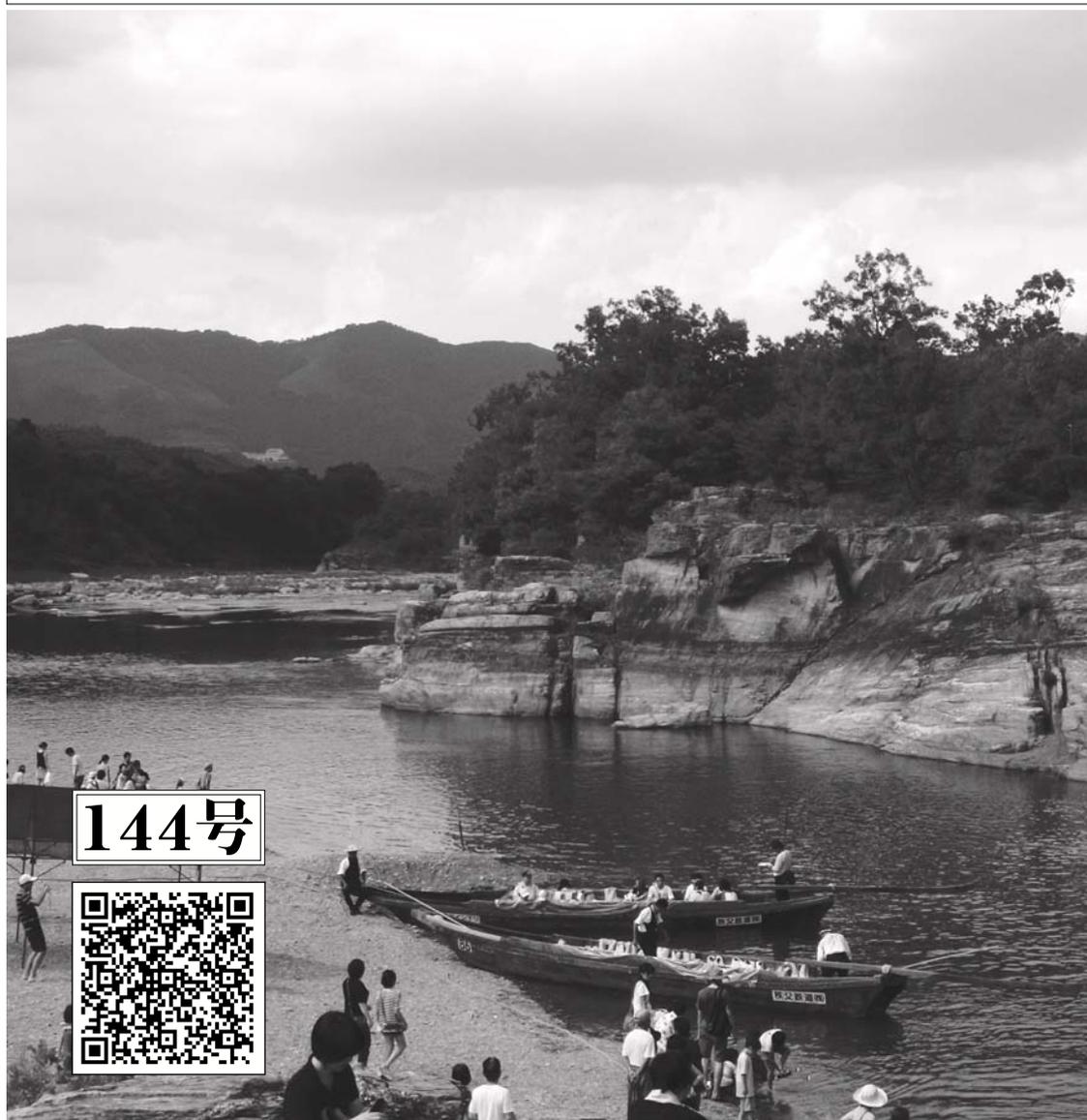
〈発行人・理事長〉

仁科俊夫

〈編集人・総務委員長〉

井上宣雄

—今月号の主な内容—



144号



副理事長挨拶

副理事長

小林 満
石下 一明



組合加入のメリット

副理事長 小林 満

よく聞かれる事です。果たしてどうなんだろう。安いとは言いい切れない賦課金を払い、様々な事業に参加させられ、理事にでも成ろうものなら手弁当で理事会だ、全鍍連だと出て歩き、会社ではいつ仕事をするの？みたいな目でみられ本当にメリットはあるのだろうか。

ひょっとしてデメリット、リス

クの方が大きいのかな。

30代から親父に代わって組合に顔を出すようになって、30年になるうとしている。ここまで組合も事業も何とか続けてこられたのだから間違いではなかったのでは。業界の関連情報などが特段の努力をしなくても組合から知らせが届く。

重要情報は研修会を開催して知らせてくれる。

要望事項は取りまとめ全鍍連で関係機関と調整してくれる。

こんなことが具体的なメリット。

しかし、これだけ。インターネット社会ではパソコンをひらけば情報はあふれている。

要望事項のその恩恵は組合員以外にも及ぶ。なかなかこのような

メリットがありますと言いい切れな

いのが現実です。それでも加入し続けている。それも積極的に。

魅力的なものです。組合の活動を通して会える人達が。

カチカチの職人気質の社長、親父と考えが違い苦労をしているせがれ、飛ぶ鳥を落とす勢いの経営者、業績不振で頭を抱える社長。

生のサンプルがすぐそこに、声をかければ皆仲間として本音、本気で話してくれる。

どれだけ成長させてもらったか。(成長なんかしていないのかもしれない)金で買えない価値があるような気がします。

ちよっと自分から動き出すと何かが変わるような気がします。



組合と組合員は、何をすべきか

副理事長 石下 一明

この所、日本の産業界にあつては「円高」「ドル安」「ユーロ安」「国内の電力供給問題」と多難が続ぎ、収益の糧を海外に、特にアジアに

毎日何かを探して周りを見ていると楽しいですよ。

つまずいたり、穴に落ちないように注意しながらやっていきます、これからも。

求める産業界の姿勢がますます鮮明になり、今までにない程急速なグローバル化の進展が広まり、国内の事業環境は悪化傾向を示しています。特に我々めつき業界の基幹産業でもある、日系自動車メーカーの海外展開は急速で車の生産台数は新興国中心に伸びている、国内生産は現状維持が精一杯と言った所で推移し、又電機・電子半導体と言った業界の生産数もマイナス傾向を示し我々めつき業界は厳しい事業経営をしいられ苦難の道歩んで居る所です。この様に物(めつきする製品)の面でマイナスが目立つ中、技術力のマイナス面も目にします。

2012年7月3日に世界的所有権機関(WIPO)の世界141ヶ国・地域の「技術革新力ランキング」が発表され、日本は総合25位と前年の20位から後退してしまいました。「1位スイス」「2

位スエーデン」「3位シンガポール」ちなみに韓国は前年16位から21位、中国は29位から34位、だそうです。日本は「創造的な成果」を生み出す評価では、上位の先進国勢からは大きく引離され、アジアでは、韓国・中国にも抜かれました。早く追いつきたいですね。では、技術革新力を生み出すのは過去の実績の積み重ねであり。「履歴効果」が欠かせない様です。実績の積み重ねは、めつき業界の私達も長年行ってきたが。今一度自社の実績に目を向け、隣国に負けぬ様、我々組合員も実績の積み重ねから技術革新力を磨き発想の転換を計り、今までしばしば言われ続けられて来た『受託型から提案型へ』の事業転換を目指し発想力を強化し、競争力を持った事業を創設しなければ、世界に取り残されてしまいます。組合員同志

同業他社との技術力コラボレーションによる新しい技術開発、又異業種顧客をも巻き込む交流の中から、新しい仕事作りに邁進しましょう。

身近な例としては、我が仁科理事長の会社では異業種との技術コラボレーションで軸受製造技術と、めつき技術の融合に依り焼結含油軸台「LFメタル」と言う新製品を生み出したそうです。

組合でも異業種交流、同業他社との技術コラボレーションのお手伝いをする為に、細やかな幅広い情報提供が出来る様、様々な提案が出来るシステム作りを目指し、若手組合員に活躍の場を提供し強化を計りたい、又全鍍連によると、めつき企業全国1530社・従業員約2万74人(共に全鍍連調べ平成24年4月1日現在)23年度の生産額は約4400億円で各地域の経済及び雇用を支える重要な産業であり、特にめつき技術はあらゆる工業製品に施され現代社会を支える重要な加工技術であると共に、我が国の基幹産業である、自動車、電子機器にとつても欠かせぬ基盤技術であり、我々めつき業界の生き残りを賭け、めつき業界全体で総力を挙げて明るい未来を築き次世代が自信を持つて活動が出来る様「めつき業ビジョン2012」の策定検討委員会を作り、目まぐるしく変化する社会情勢、経営環境に対応する、ものづくり産業の先陣を切るめつき業界の知恵を結集する様に組合員の一層の協力をもとめて居ます。

我々埼玉県鍍金工業組合もビジョン作りに協力しつつ今の苦境を発展するチャンスと受け止め、長い歴史の中でお互い切磋琢磨し共生して来た事実とめつき業界の高度な技術力と創造力の強化で乗り切れる様、組合活動に一層のご協力を願います。

同業他社との技術力コラボレーションによる新しい技術開発、又異業種顧客をも巻き込む交流の中から、新しい仕事作りに邁進しましょう。

我々埼玉県鍍金工業組合もビジョン作りに協力しつつ今の苦境を発展するチャンスと受け止め、長い歴史の中でお互い切磋琢磨し共生して来た事実とめつき業界の高度な技術力と創造力の強化で乗り切れる様、組合活動に一層のご協力を願います。

第47回 通常総会開催される

埼玉県鍍金工業組合（仁科俊夫理事長）は、平成24年5月25日（金）午後4時00分よりパレスホテル大宮にて平成24年度第47回通常総会を開催した。

来賓をはじめ組合員・賛助会員多数出席のなか、井上宣雄総務委員長が司会を務めた。初めに、石下一明副理事長より開会の辞を頂いた。

次に主催者挨拶を代表して仁科俊夫理事長より挨拶を頂いた。「大変身体を動かすにも気持ちのよい季節となりました。この様な季節を山滴る季節と言われるそうです。仕事の方は残念ながら厳しい状況が続いていますし、円高の影響もまだまだ続いており皆様も大変な事と思います。そんな



中、電力料値上げの問題が我々製造業の頭を悩ませる状況でありますが、この問題に対して、全鍍連を通じて反対の意向をお願いしており、この厳しい中、我々業界が少しでも負担が軽減できればと思っております。昨今では、大きなニュースにもなりましたが、荒川水系でホルムアルデヒドが検出されたとの報道がありました。が、厳

密に言うところ、荒川に放流された工業用排水の中にヘキサメチレントラミンが入っていた事で、取水上に取り込まれた水を殺菌する際に使用される塩素と反応してホルムアルデヒドが生成されたと推定されています。このような事が起こる度に我々業界が疑われ、イメージが悪くなり、あまり良い事ではなかったと思います。しかしながら、我々はこの様な事が起こらない様、埼玉県と連携し公害防止管理者再教育を通じて情報を発信し、しっかりと纏まって対応していきたいと思えます。きつと山滴る季節のような明るい未来が待っていると思えますので、一致団結して頑張つて参りたいと思えますので今後とも皆様のご協力を宜し

くお願い致します。」と述べた。続いて、議案審議に入り議長に小松原秀元氏・書記に熊木孝之氏が選任され議事に入った。はじめに、書記の熊木孝之氏より出席状況について本総会が成立要件を満たしていると報告があった。



(5)



第1号議案、平成23年度事業経過報告・財産目録・貸借対照表・損益計算書及び損失金処理(案)を吉田幸司専務理事並びに各委員長が報告

第2号議案、監査報告を黒澤久司監事より報告があり、第1号・2号議案を一括審議、満場一致で承認された。

第3号議案、平成24年度事業計画(案)並びに収支予算(案)、承認の件

第4号議案、借入金の最高限度額

決定の件、を吉田幸司専務理事並びに各委員長が説明、満場一致で承認された。

第5号議案、その他では、吉田幸司専務理事より組合員数の報告があり、本年度、新規加入企業は無く、退会企業は2社あり、正組合員企業は87社、賛助会員29社との報告があった。

全ての議案審議も滞りなく終了した後、閉会の辞を小林満副理事長より挨拶を頂き総会の幕を閉じた。

この後、小休憩後、同会場隣のローズルームにて懇親会を開催し、井上宣雄総務委員長の司会で始まり、開会の辞を石下一明副理事長よりご挨拶を頂いた。

続いて、主催者を代表して仁科俊夫理事長よりご挨拶を頂いた後、

埼玉県産業労働部 副部长 立川吉郎様

参議院議員 西田実仁様

衆議院議員 振動義孝様

全国鍍金工業組合連合会 専務理事 近藤隆義様

来賓の皆様より祝辞を頂いた。

今井昭雄相談役のご発声で乾杯、祝宴に入り終始和やかな雰囲気の中、中締め挨拶を小林満副理事長よりご挨拶を頂き、第47回埼玉県鍍金工業組合 通常総会懇親会を終了した。



全国鍍金工業組合連合会 平成24年度通常総会・懇親会を開催

平成24年5月29日(火) 機械振興会館にて



きるかを模索する中で今総会を迎え、来場した各企業の代表者達の情報も例年に無く緊張感が漂っていると感じた。

冒頭に主催者を代表して伊藤全

鍍連会長が「常日頃の全鍍連事業に御協力、御尽力をいただきありがとうございます」との挨拶をされ本題として「昨年度の総括としては、震災、電力不足、タイ洪水、輸出低調、産業の空洞化など色々な問題がある中、今年の1～3月期は徐々にあるが回復傾向にあるとのデータがあるとはいえ地域格差・業種格差・企業格差がまだまだあるため、金融、災害などの大きなハプニングが起こらないことを祈っています。今年度は、変革の時、未来づくりへ」と掲げたサブタイトルを实

行に移すべく、新しいビジョン策定委員会をつくり、提案型・開発型のめつき業を目指して若い方々が希望を持てるようにしたい」と前進する決意を示された。

議事審議は伊藤会長を議長に、平成23年度の事業報告や収支報告などが上程され満場の拍手でこれらは承認された。今期の事業計画では先の会長の挨拶でも触れた平成24年度特別事業として「めつき業のビジョン」策定について説明がなされた。以下に説明を記載します

①自動車産業、情報家電産業、ロボット産業などにおいて、必要なめつき技術の優位性を整理するとともに主要産業の技術分野にかかる技術動向、国や民間で取り組まれるべき重要度が高い

と考えられる技術を絞り込み、今後のものづくりに重要な基盤産業界の中核をなし、めつき技術と市場などを予測しながら、「めつき業のビジョン」としてとりまとめ、我々業界の将来像を考案する。

②時代に合わせた委員会事業の推進と各事業所への情報提供の強化をすすめる、多様な経営環境にある組合員へのメリットに応じた事業への見直しを図り、事業活動を時代にあわせたものに進展させるべく、めつき要覧の内容拡充、情報の共有化、人材育成の強化などを検討事項とする。常設委員会とは別に検討委員会が設置され、実施計画案や特別委員会設置要綱などの説明とともに

昨年、東日本大震災の様々な影響に加えて、原子力発電所の停止による電力不足、タイの洪水でのサプライチェーンの寸断、円高に起因する競争力不足や顧客の海外移転など、一度に難題を突きつけられた格好となった日本・世界経済の中で我々の業界がいかに力を発揮で



平成24年度に叙勲・褒章を受け

られた方々が披露され来場の方々から盛大な拍手が送られた後、来賓挨拶として経済産業省製造産業局非鉄金属課の星野課長は祝辞の中で「現在の経済状況は非常に不透明で困難な連続ではあるのだが、このように全国的にまとまった組合はあまり例がなく益々の発展を希望するとともに明るく団結して事業発展に寄与して頂けると有難いと

の発声で懇親会に入った。

懇親会は全国から集まった同業の仲間たちが、日頃の状況や今後の見通しなどの情報交換が盛んになされ、真剣に語り合うグループや笑顔で談話をするグループなど様々であったが、全般的には今春の賀詞交歓会時の悲壮感や希望喪失感が漂う状況からは年度も替わり、皆が前向きになって進んでいこうという雰囲気を感じられた。

検討委員会の座長には久米道之氏（名古屋産業振興公社常務理事／元名古屋市工業研究所長）が推薦され、承認された。その他の議事もスムーズな進行と満場の拍手にて、すべて承認可決がされて無事に平成24年度の通常総会は閉会となった。

懇親会の模様

総会終了後には会場を移して大勢の来賓や賛助会員を交えて盛大に開催された。

激励を受けるとともに、国としても多くの交付金などを用意してお手伝いをさせて頂きたいのでお気軽に相談をしてください」と各省を代表してご案内をいただいた。とても明るい方で気さくに語りかける感じが印象的で、腕時計を確認すると、まもなく定時も過ぎるのでグラスを持ちながら多くの方と懇親を深めたいと笑いを誘った。

乾杯はいつものように、駆けつけた名誉顧問の面々が元氣良く乾杯

鈴木・姫野各常任顧問により中締めがされ、難局を向かえているが未来づくりを目指して頑張っていこうとの掛け声のもと、盛大に3本で締めて閉会となった。

総会に参加していた時の参加者の緊張した表情は一樣に明るく変わり、全国へ全鍍連の総会・懇親会の思いや熱気を送り届けられたのではないだろうかと感じた。

技術委員長 饗場功治

埼玉鍍金工業会 新会長挨拶

渡邊 順一



このたび、6月9日に行われました平成24年度第43期定期総会にお

きまして、第22代会長に就任いたしました渡邊順一です。43年目を迎える歴史ある埼玉鍍金の会長職を引継がせて頂く事となり、身の引締まる思いが致しますと共に、責任の重さをヒシヒシと感じております。田中前会長のご指導の元、諸先輩方の築いて来られた多くの成果を引継ぎ、歴史と伝統を無にしない様、努力して参りたいと思います。

皆様ご承知の通り、我が日本国経

済は震災からの復興需要や政府からの財政支援などによって、一部回復の兆しが見えはじめているかのようにですが、電気料金の値上げや消費税問題、T P P等、問題も山積しており、依然としてデフレから脱却出来ずにいます。また、世界経済もギリシヤに端を発するEUの財政金融不安が払拭出来ずにいます。

この様な製造業にとって大変厳しい時期に本会の舵取りを任せられた訳ですが、会則にもある様に會員相互の親睦を図ると共に資質の向上を目指して会運営に当って行きたいと思います。また、埼玉県鍍金工業組合をはじめ鍍金業界全体の発展の為に会として微力ながらお手伝いをさせて頂く所存です。

さて私は常日頃、埼玉鍍金は「我々メンバーが社会人として、そして自分

の人生を歩む上で自らを鍛えあげる

絶好の場所でありチャンスである」

そして、「志を同じく集った仲間を

思いやり、親睦を深め、切磋琢磨をし

ながら共に成長して行く場」だと考

えています。所属会社では出来ない

体験を通して、自己の向上に努め、同

業だから話せる悩みを分か合う、そ

の様な埼玉鍍金を目指して行きたいと

思います。また、現在私達の置かれ

ている状況は大変厳しいものです。

その状況を打ち破るにはまず我々青

年部層が元気である事が大切だと思

います。その為には會員同士が事業

を通じて楽しい事、辛い事をお互い

に共有して絆を深め、私達自分自身

が元気にならなくてはなりません。

その中から元気を貰い自社企業を、

ひいては業界全体が元気になって行

く一助に埼玉鍍会がなる様取組んで参

ります。

昨年度より田中前会長の元、近隣

都県の鍍金組合青年部との交流事業

が始まりました。私の任期中も積極

的に取組んで行き、次期に繋げて行

きたいと思ひます。今まで同業者で

もありライバルでもあったであろう

者がお互いを知り交流する事によ

り、良い意味でのライバルとして、切

磋琢磨しながら共存共栄を図り、共

に発展出来ればと思ひます。

私達青年部ひとりひとりの力は

小さいかも知れませんが、一致団結

してこの厳しい状況を乗り切つて

行ければと思ひます。

最後に會員の皆様をはじめ、埼玉

県鍍金工業組合員各社、関係団体各

位に置かれましては、引き続き格段の

ご理解とご協力をよろしくお願ひ

申し上げます。

埼玉鍍金工業組合 第43回定期総会を開催

2012年6月9日(土)



金工業(株)小林(直)様により、議事進行がなされました。(株)大宮鍍金工業 出野様の「開会の辞」により、定期総会が開会され、はじめに、(有)阪本鍍金 阪本様より「平成23年度の事業報告」、続いて、(株)真工社眞子様より「平成23年度収支決算報告」、会計監査報告は監査役を代表して、(株)ダイコウ 下村様が行い、意見、異議もなく、本件は承認されました。

2012年6月9日(土)さいたま市大宮区の「料亭旅館新道山家」にて、埼玉鍍金の第43回定期総会が行われました。

当日は小雨が降り、お足元の悪い中、34名と大勢の会員に御出席頂きました。定期総会は、司会進行、潮工業(株)餐場様、議長 小林鍍

の会長職がバトンタッチされる事となりました。一瞬、会場が田中会長に、2年間本当に御苦労様でしたと言った雰囲気になりました。

次に、今総会をもって、現会長 田中様が任期満了となる為、役員改選が行われ、推薦により、新会長に、(有)渡辺鍍金工業 渡辺様が、満場一致で、可決され、第22代会長に就任される事になりました。退任される(株)精硬クローム工業 田中現会長より、渡辺新会長に埼玉鍍金

しなければ、同業であり、お互いの苦労を知る良い仲間を作る機会には、なかなか巡り合えないのではないのでしょうか。

定期総会も無事に終了し、総会会場と同じ「料亭旅館新道山家」の宴会場にて、懇親会が行われました。懇親会ではお忙しい中、御来

また、渡辺新会長から、「絆 信頼できる仲間と共に新たな挑戦!」と言う、平成24年度の活動テーマや、事業計画(案)、予算(案)が上程され、各議案すべて満場一致で可決されました。そして、新

会長挨拶では、「埼玉鍍金とは、真剣に悩みを相談出来る仲間をつくったり、有意義な情報交換を行ったり、時には、一緒に一所懸命遊ぶ、そんな仲間を作る場所ではないか」と、今年度の活動テーマの意図を説明されました。確かに考えてみますと、この様な存在





賓として、埼玉県鍍金工業組合から仁科理事長、黒澤様、井上様、東京都鍍金工業組合青年部から鈴木会長と豊田様、会友の新藤様にも御参加頂き、盛大な懇親会となりました。

そして、懇親会に先立ち、仁科理事長から、ご祝辞を頂きました。その中で、「円高や景気不安の情勢ではあるが、埼玉県鍍金工業組合は、会員が必要とする情報を出るだけ発信していくので、どん

どん組合を便利に使って欲しい」と力強いお言葉を頂戴し、出席者は皆、心強く感じたのではないのでしょうか。

そして、東京都鍍金工業組合青年部鈴木会長から、埼玉鍍金の団結力を賞賛され、「我々も負けないように頑張っていけます。お互い協力し合っていきましょう」と有難いお言葉を頂戴致しました。本当にある意味、お互いが切磋琢磨し、刺激し合い、いつまでも、お互いを高め続けられる様な、良い関係であり続けたいと感じたお言葉でした。

また、懇親会の中では、新規入会会員として、(株)三進製作所 渡辺威彦様、(有)マルエス工業 関根道雄様、変更会員として(株)タイホー山口信明様の3名の紹介が行われました。

一人ずつ、ひとこと挨拶頂きましたが、埼玉鍍金メンバーとして、会



員との交流を深め、今後の埼玉鍍金活動を、より一層盛り上げていくて頂きたいと思えます。

定期総会の後、19時から始まった懇親会も、あつという間に2時間が過ぎ、締め時間となつてしまいました。締めは第9代会長、新光メッキ工業(株) 新藤様、第18代会長 新硬クローム工業(株) 新谷様、お二方の発声により一本締めで、懇親会の閉会となりました。

また、いつも以上に、大勢の方々

に御出席頂いた事もあり、懇親会の最後には急遽、参加者全員で集合写真を撮ると言う一幕もありました。埼玉県鍍金工業組合青年部「埼玉鍍金」は、今回の定期総会、懇親会を期に、渡辺新会長を中心として、新たなスタートがきれたのではないのでしょうか。

埼玉鍍金編集 佐藤智弘

瑞寶單光章受章

松本鍍金工業株式会社 代表取締役 松本 光司

この度、春の叙勲に於いて瑞寶

ます。

單光章(消防功勞)を受章し、去る

6月1日皇居にて陛下に拝謁し、

7月8日に池袋のホテルメトロポ

リタンに於いて、220名の皆

様方に御出席を戴いて祝賀会を開

催することが出来ました。

昭和40年8月に赤羽消防団に入

団し分団長、副団長を務めさせて

戴いた事が受章の対象となったわ

けであります。入団当時は今と

違い多くの火災に出動し、何人か

亡くなった人にも立ち会い、水害

の出動もあり、一日中ボートを押

して住民を運んだ事がついこの間

の様に思われます。

この様な永年の活動が評価され

叙勲につながったものだと思います。

何年も一生懸命努めれば必ず報

われるものだと改めて感じて居り

ます。



最後にありますが、祝賀会当日、
仁科理事長様より丁寧なる祝電を
戴き厚く御礼申し上げます。

編集後記

表紙の写真は長瀧ライン下りで
す。
荒川上流部の長瀧渓谷を和船で



訃報

増坪 亮さん

ダイヤ技研(株)

代表取締役

元理事

平成24年7月21日 逝去

享年71歳

下ります。秩父鉄道「長瀧」駅前
に案内所があります。

長瀧渓谷は国指定の名勝・天然
記念物(1924(大正13)年指
定)。県立長瀧玉淀自然公園です。

また、秩父鉄道ではC58型
の蒸気機関車がSL「パレオエ
クスプレス」として走ります。



印刷

保証企画工芸株式会社

〒110-0012

東京都台東区竜泉1-4-3

TEL03(3875)1641